



## 世界手洗いの日 Project @ あさひ幼稚園

10月13日、ダンサーの森山開次さんが、自身で振り付けした「世界手洗いダンス」を南三陸町のあさひ幼稚園の園児たちといっしょに踊りました。

「世界手洗いダンス」は、正しい手洗いを楽しみながら学べるダンスです。洗うポイントは、「手のひら」「つめ」「親指のつけね」「手のこう」「指のあいだ」「手首」の6つ。右手も左手も、ぜんぶで20秒以上、しっかり洗えますよ！ 森山さんは「小さな力でも、世界手洗いダンスで、子どもたちの健康と笑顔を守りたい。子どもたちの声が響き渡る南三陸町にもどることができるよう応援したい」と話されました。



## エルパーク仙台でユニセフ・東日本大震災報告写真展を開催しました

10月10日～16日、5階展示ギャラリーにて、地震・津波の被害の状況や、震災直後から支援活動を行っているユニセフの活動状況を約60枚の写真で表しています。新聞でも「倒壊した墓前に花をささげる名取市の子どもや、贈られた玩具を手に笑顔で遊ぶ石巻市の幼児の様子が目をひく」など、記事として取り上げていただきました。



## 子育て支援学習会「遊びを通した子どもの心のケア」

みやぎ生協と共催で、日本セラピー協会から講師を招いて10月19日・みやぎ生協名取西店、20日・仙台市福祉プラザ、21日・みやぎ生協蛇田店の3会場で開催しました。みやぎ生協のメンバーやユニセフ・ボランティアが参加しました。子どもは「遊ぶこと」を通して、自らが受けたストレスを軽減させたり、自分を表現したりします。震災を経験した子どもたちにとって、「遊ぶこと」の大切さ、大人の関わり方をさまざまなロールプレイをしながら楽しく学びました。『子どもたちの元気を取り戻す手助けをするには、まずご自分の元気を保つ必要がありますよ！』支援する人のセルフケアが大切だと再認識しました。

## 「国連デー@東北大学」にブース出展しました

「東日本大震災からの復興、そして新生～東北から世界へ」のテーマで、10月24日、東北大学川内萩ホールにて国連アカデミック・インパクト署名記念シンポジウムが開かれ、「パートナーシップで取り組む」パネルディスカッションに日本ユニセフ協会・菊川穰もパネリストとして参加しました。支援活動での協力関係がいかに大切かを改めて実感しました。



← 世界での支援様子を展示

日本ユニセフ協会の東郷良尚副会長が、みやぎ生協の理事会（10/21）でごあいさつをされました。この度の震災におけるユニセフの支援活動が迅速にできたこと、被災した学校への教材教具、子どもたちの学用品の配送にご尽力いただいたことへの感謝の言葉と、今後の協力をお願いしました。

